

令和5年1月31日

緑小だより

2月号

横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

人との関わり

副校長 津守 逸実

新年が始まったと思ったら、もう1か月が過ぎようとしています。1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われ、時が経つのが早く感じます。

どの学年の児童も、冬休み明け学校開始早々、書初めを行いました。新たな気持ちで字を書いている姿が素晴らしかったです。ピーンと張りつめた空気の中で、先生から教わったポイントに気を付けながら、しっかりと字を書く児童が多かったです。これらの力作は、分散授業参観等で来校の際にご覧になって、感心したことと思います。



さて、6年生は残すところ、卒業までの授業日数が32日となります。卒業式に向けての取り組みも始まります。また、すでに卒業文集においては、担任の指導のもと書き上げることができました。私は、6年生がどのような内容を書いたのか知りたくて、

読んでみました。将来の夢や小学校の思い出について書いてあり、将来の夢については、今の自分の能力を顧みて、自分に合っている職業は何なのか具体的に（パイロット・ゲームクリエイター・ディズニークャスト・プロ野球選手・プロサッカー選手・画家・インテリアコーディネーター・教師・保育士・銀行員・調理師・声優・イラストレーター・フォトグラファー・医療関係者・TVカメラマン等々）考えていたことに感心させられました。また、小学校の思い出については、人との関わり・友達の大切さ・家族の支えを挙げている人が多かったです。特に、友達の大切さでは、「一緒にいることで挑戦できる」「相手を思いやる心が身に付いた」「感謝の気持ちをもつようになった」と書かれていました。このように、6年生の作文を読むと、一人ひとりがしっかりと今までの自分を振り返り、未来に向けて進もうとしているのが読み取れ、改めて私たち教師としての職業の重責を感じました。

私は、人との関わりという点で、以前、国語の教科書に載っていた、「外来語と日本文化」という説明文を思い出しました。「カルタ・ポルトガル語」「カルテ・ドイツ語」「カード・英語」は、それぞれの国で「厚みのある小型の紙」という広い意味で使われていましたが、それらの言葉が日本に入ってきたとたんに、意味が狭くなってしまったという内容でした。「カルタ」は、室町時代にポルトガルから。西洋人が数と模様を書いた厚紙で楽しそうに遊んでいたのが心に残った。「カルテ」は江戸時代末にドイツから。医学はドイツから学ぼうとしていた。「カード」は江戸時代末にアメリカ・イギリスから。一番深く交わったので、意味も割合に広い意味で使われている。つまり、諸外国との交わりの違いが、言葉に反映しているということでした。この単元の学習を指導していた時に私は、いつ、どのようにして人と関わったことによって、将来の自分の職業が決まっていくのではないかと考えていたことを思い出しました。

私も小学校5・6年生の担任の先生と中学校1年生の担任の先生との出会いにより、「教師」という夢をもち、それを実現することができました。5・6年生の時の担任の先生は、親身になって接してくれました。また、児童一人ひとりの良さを見出して、その良さを伸ばそうとしてくれました。放課後によくソフトボールをして遊んでくれたり、先生の家遊びにも行かせてくれたりしました。中学校1年生の担任の先生は、授業中に発言をすると大袈裟に褒めてくれたことによって、勉強に対するやる気を引き出してくれました。生徒たちの心をつかむのがとても上手で、クラスの雰囲気は常に盛り上がり、何（壁新聞や牛乳パック大根・合唱祭等）をするにも楽しかった思い出があります。

これからも一人でも多くの児童が夢をかなえられるように、日常の学校生活をはじめ、さまざまな場面での子どもたちの学び・学び合いができるように、教職員が一致団結して支援していきたいと思います。

残り2か月間、引き続き保護者・地域の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。